



羅臼小学校6年生 サケ学習

春松幼稚園で森林学習開催

去る、10月17日に春松幼稚園にて、年長組園児を対象に根室振興局林務課職員及び森林室職員による「森林学習」が開催されました。

はじめにプロジェクターを使い、森林の役割と植樹の大切さについて、林務課職員より説明がありました。「木があることにより動物のエサとなり、動物が生きるために必要である」ことや、土砂災害について起きる前の状態の画像を見せ、説明員が「大雨が降るとどうなるのか?」と問いかけると、数名の園児から「土砂災害が起きる」と返答がありました。羅臼町でも、昨年土砂災害が発生し、もしかしたら園児にも記憶があるのかもしれないと感じられました。

その後、砂山に住宅などの模型を設置し、そこに実際に水を流し土砂災害になる状態を確認致しました。

続いて、森林室の説明員が、森林にあるマツブックリやキノコなどを中身が見えない袋に入れて、園児がその袋の中のものを手触りであてるゲームを実施し、園児たちも必至に解答しておりました。ゲーム感覚で覚えることが出来、園児も大変喜び「森林学習」を終了しました。



第2回アフタースクール

今年度第2回目のアフタースクールが、11月11日(土)~12日(日)に、小学校3年生以上を対象に羅臼小学校で行われました。

教育大学の学生は、18人とたくさん協力していただきました。

今回も楽しくわかりやすい勉強をたくさん考えてきてくれました。国語では、物語の人物の気持ちになって考える勉強。理科では、花火の色はどうしていろいろな色に見えるのか。炎色反応で実際に見せてくれました。等々2日間とも本当に楽しい授業が盛りだくさんでした。

子どもたちもとても楽しく学習できたようでした。

子どもたちに対して行ったアンケート集計の結果は、勉強は、「とても楽しかった」、「楽しかった」が全員でした。また、勉強はわかりやすかったかどうかを聞くと、「とてもわかりやすかった」、「わかりやすかった」が全員でした。

3年生から5年生までに来年も参加したいか聞くと、「絶対参加したい」、「参加したい」と解答した子がほとんどでした。

自由記述では、「わかりやすくて楽しかった。」「とても勉強がわかりやすかった。」「来て良かった。」「たくさん頭を使ったし、楽しかったのでまた来年も来たいです。」「いろんなことがわかったし、話書くのが楽しかった。」

教育委員会では、教育大と連携して来年も実施したいと考えています。



11月6日(月)に羅臼小学校の6年生がサケ学習を行いました。

羅臼漁協の女性部の方々(10名)が来校して羅臼町の魚介類を使ったお料理を教えていただきました。

女性部の方々は大変手際よく4品(コンブご飯、つみれ汁、鮭ザンギ、イカサラダ)の作り方を丁寧に教えてくれました。

また、調理と同時に使った食器を洗うなど休む暇もなく作業をしていただきました。

食事の時には、女性部の方々が事前に作っていたデザートもごちそうになりました。

お腹いっぱい羅臼の味覚をいただきました。とてもおいしかったです。

羅臼漁協女性部の皆さん、お忙しい中本当にありがとうございました。



平成29年度 羅臼町「税に関する作品」表彰式 受賞者名簿

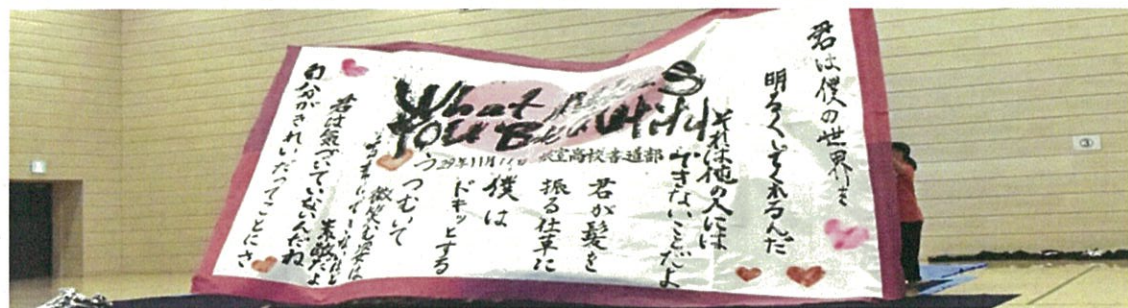
【羅臼町(羅臼町租税教育推進協議会)表彰			
高校生の税に関する作文		中学生の税に関する	
最優秀賞	1年 岡 ゆめ	最優秀賞	2年 田中 星衣(春中)
優秀賞	1年 中陳 愛晴	優秀賞	2年 不動 美優(羅中)
	1年 川村実紗希		2年 下柘棚 李(羅中)
佳作	1年 長川 彩	佳作	2年 小嶋 実夕(春中)
	1年 竹田 莉乃		2年 小野寺風花(春中)
中学生の税に関する作文			
最優秀賞	3年 本見 一葉		
優秀賞	3年 太田 未有		
	3年 望月あかり		
佳作	3年 小川真優佳		
	3年 中村 花帆		

(全員羅臼中学校)



ハイスクールフェス 2017in 中標津

～私たちが創りあげる
地域の色～



このイベントは、根室管内の高等学校及び高等養護学校が集まり、日頃の学習成果を発表し合う広域的な文化祭です。根室管内各市町が開催地を持ちまわって実施されてきましたが、中標津会場を最後に5年間続いたフェスは惜しくも終了となります。

本フェスは、中標津町総合体育館にて盛大に開かれ、学校紹介や部活動紹介、ステージ発表に各高校が栽培・開発した商品や工芸品の販売など、お客様を飽きさせない催しがいくつもありませんでした。実行委員会プログラムでは、各校対抗のゲームで盛り上がるなど、生徒間のふれあい、地域住民に対する活動の理解向上が図られ、各高等学校の取り組みを知ることでできる良い機会となりました。



第5回高校生チャレンジグルメコンテストで準グランプリに輝いた開発料理「らうすトロイカップ」も出品。すでに様々なイベント出店を経験し手慣れた手付きで販売する姿は、これまでの取り組みの集大成をうかがわせました。お客さんからも好評で、用意した80食は時間内に完売しました。



羅臼高校は、写真部による第64回高文連釧根支部写真展に出展した作品62点が展示されました。知床をフィールドにした風景写真や、オオワシをフォーカスしたダイナミックな作品、“人”に焦点をあてた作品等数多く展示され、訪れた人々は次々に足を止め、鑑賞に浸る様子がありました。

開会式の冒頭に、「ジュニアリーダーコース根室」の取り組み発表がありました。「ジュニアリーダーコース根室」とは、管内各市町代表15名の中・高校生が課題意識を持って地域を見つめ、地域活動に主体的に参画する意欲や態度を育むことを目的とされたリーダー研修事業です。この度、“我がまちのヒト”をクローズアップしたリーフレットを作成することを通じた事業となっており、市町毎に作成したリーフレットの説明が行われました。



→中高生が作成したリーフレット。空港やコミュニティセンターなどが集まる公共機関に広く配布されます。



羅臼高等学校 祝 準グランプリ

第5回高校生チャレンジグルメコンテスト inHOKKAIDO が音更町を会場に10月8日（日）に開催されました。平成25年度から始まったこのコンテストは、高校生の自由な発想により料理を開発し、地域の食文化について学習することをねらいとした全道グルメ甲子園です。今年度は厳しい書類審査を通過した全道10校が渾身の逸品を携えて出場し、接客・販売・PR合戦から熱戦が繰り広げられました。羅臼高校は、過去5回全てのコンテストに出場し、内3大会において北海道知事賞を受賞するなど、輝かしい成績を収めています。



羅臼市場を見学し地元の魚介類を学習していく中で、地元の人なら普段食べなれている「ドスイカ」は、鮮度管理が難しく、町外への出荷が難しいことから、羅臼以外の人にとっては貴重なイカであることを学習しました。多くの人に広く食して欲しいとの思いから「らうすトロイカップ」を考案。町内関係機関との試食会や、漁火祭りでアンケート調査に協力いただきながら改良を重ね、限られた時間の中で自慢の逸品に仕上げました。



調理や食物、農業や商業を専門に学ぶ生徒が通う強豪校が集結する中で、普通科高校で“チャレンジ”した羅臼高校のこの度の準グランプリは、大変喜ばしく意義深い賞であります。これも関係する生徒の努力はもとより、食材選び・料理の手順やコツ・レシピ化の手法・調理できる環境など各分野で活躍されている地域の方々を一つひとつお借りし、結集した地域連携の賜物でもあると考えられます。羅臼には、商品開発におけるトータルコーディネーターはいませんが、こうした連携・サポート体制をとれるのも羅臼ならではの強みであることを感じられたことも大きな成果といえるでしょう。

